生涯学習推進計画

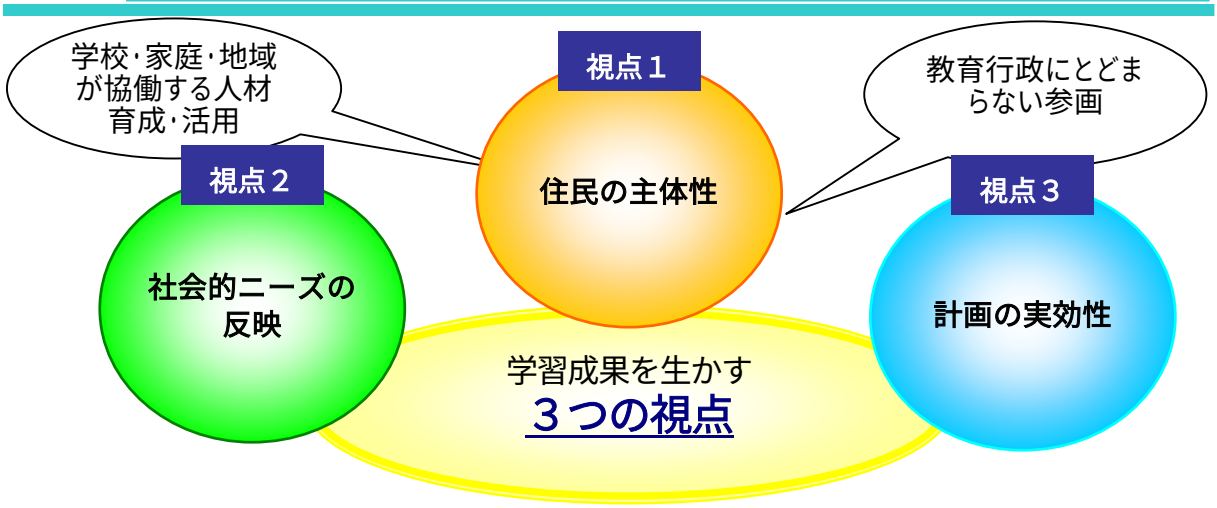
背景

団塊の世代の退職により、地域とのかかわりが疎遠になりがちな「会社人間」と言われる中高年が地域に帰ってきます。これにより生涯学習の高まりが予想されますが、学習を生かして地域の活動に参加するよりは、学ぶこと自体の楽しみのために学習する高齢者が多いのが実態です。これまでの生涯学習振興行政は、個人の文化・教養的学習ニーズを充足させる学習機会の提供に重点が置かれてきましたが、これからは学習成果を地域での社会参加活動に生かすことができる仕組みづくりが求められています。このため、生涯学習を教育行政の枠の中にとどめず、学習成果を生かす場、機会の創出が不可欠です。

一方、核家族の進行など家族形態の変化や地域社会の結びつきの希薄化によって、子どもの社会性が育ちにくいこと、明確な将来の目標やビジョンを描けずにいる若者が多いという現象を招いており、若者の自立に向けた学校、家庭、地域の協働する人材や仕組みが求められています。

激変する社会の変化に対応し、一人ひとりが自ら「生きる力」をつけるために、多様なキャリアを選択できるよう職業的な自立を図るために、豊かな生活と豊かな地域をつくるために、助け合い、支え合う人間関係を構築するために、①知ることを学ぶ、②為(な)すことを学ぶ、③他者と共に生きることを学ぶ、④人間として生きることを学ぶ、生涯学習の計画的な推進は、活力と品格に満ちた地域づくりにとって欠かせない要件です。

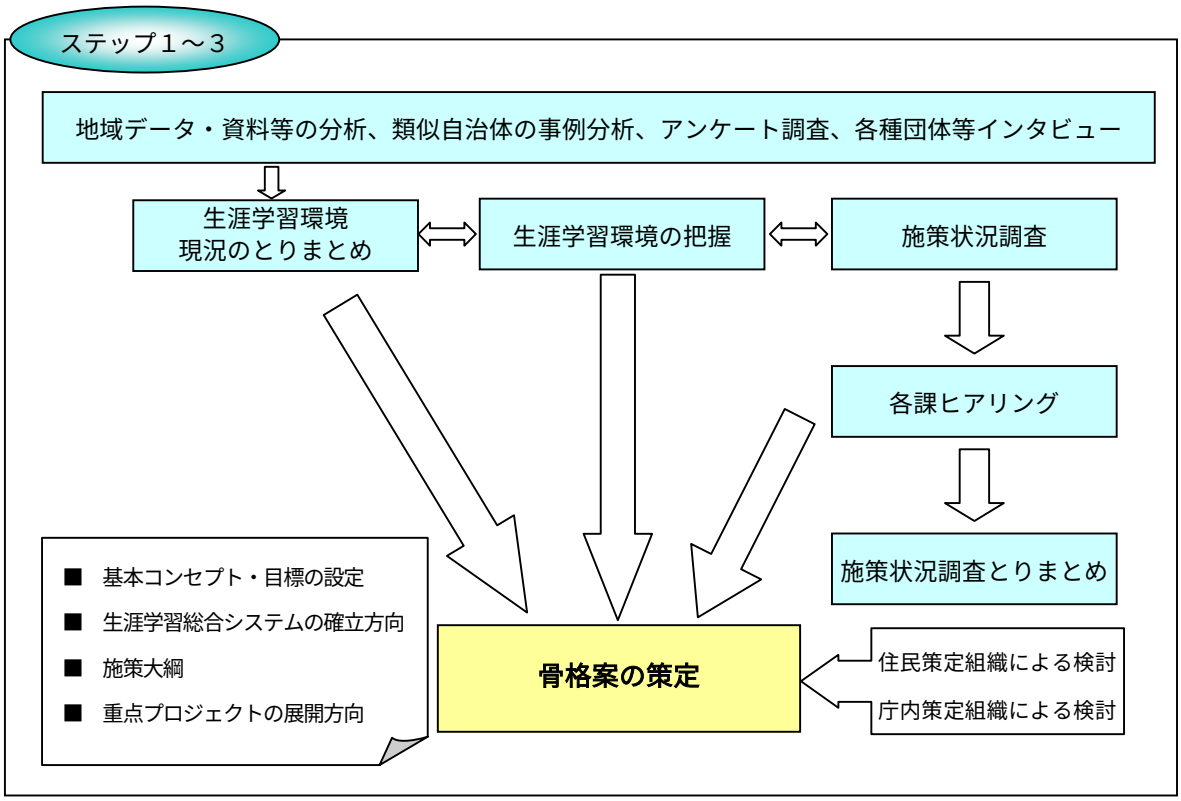
視点

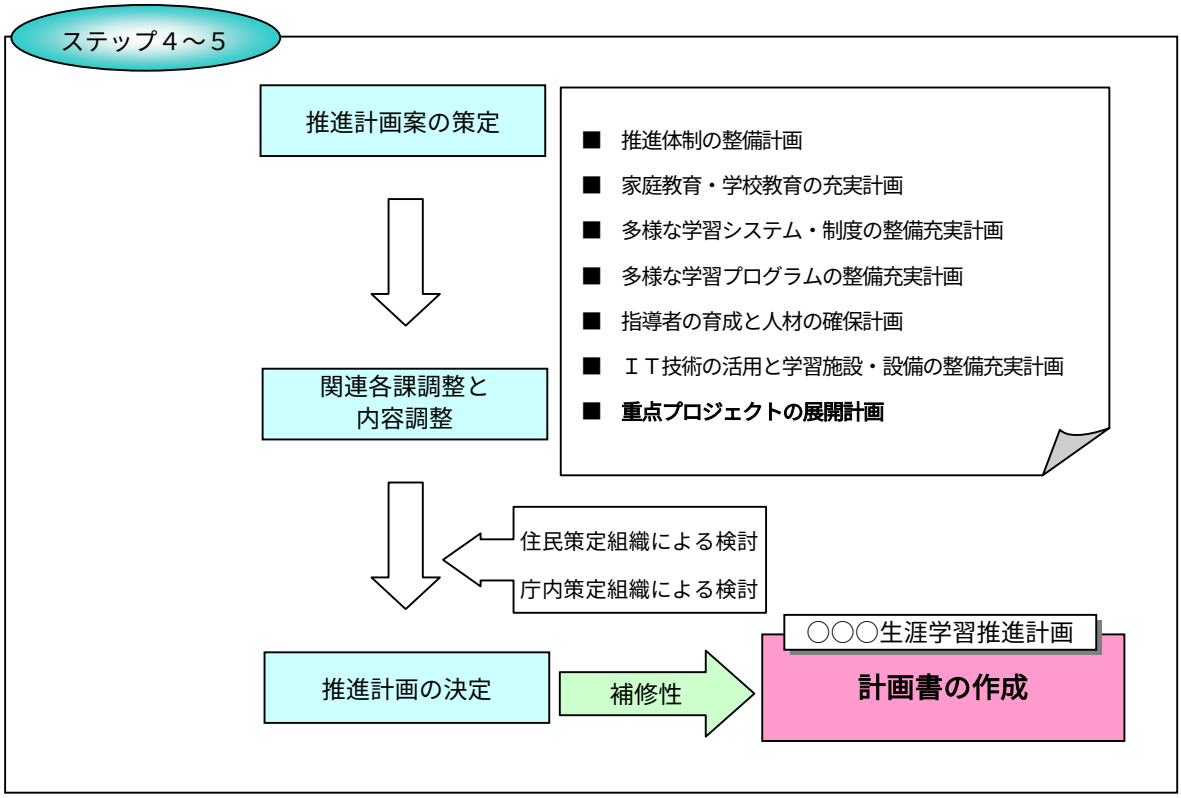


Copyright(c) 2005 GYOSEI INSTITUTE, All Rights Reserved

ステップ

次のステップに沿って策定します。





Copyright(c) 2005 GYOSEI INSTITUTE，All Rights Reserved